

## 興福寺国宝特別公開 2017

朝日新聞 9月9日朝刊から。奈良時代と鎌倉時代一。制作時期が約500年違う仏像19体が一堂に会し、現代にみずみずしい空気を醸す。奈良・興福寺で開かれる「興福寺国宝特別公開 2017 阿修羅~天平乾漆群像展」(後期)は、時空を超えた深い祈りを私たちに示してくれそうだ。

写真は同紙掲載「興福寺仮講堂に並ぶ仏像群。本尊・阿弥陀如来像(中央)を中心に3方向を撮影したものである。

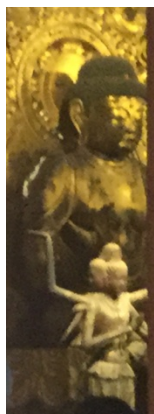


全19体のうち、阿修羅像など八部衆像と十大弟子像の計14体は734(天平6)年の国宝。一方、阿吽2体の金剛力士像(12~13世紀、重文)、梵天・帝釈天像(12~13世紀、重文)、本尊の阿弥陀如来像(12世紀、重文)は鎌倉時代に生み出された。時代は離れていても、ひとつのお堂の中でひとつに溶け込んでいる。

この写真に引きつけられ、興福寺に行きたくなった。仏像を見るために、朝一番で久しぶりの「奈良さんぽ」に出かけた。新幹線で京都まで行き、京都から近鉄に乗った。このルートは初めだ。近鉄の奈良駅から、すこし歩いて興福寺に着いた。途中の鹿に「しかと」目をやって急いだ。多くの人が並んでいると思っていたが、先頭でチケットを買えた。静かな仮講堂に入ると、写真のように19体の仏像がずらりと並んでいた。

本尊の阿弥陀如来像はもちろんだが、両脇の仏像群もなんとも言えない。まだ人も少なかったのが堪能できた。注目したのは、やはり阿修羅像であり、しばしの間じっと見つめていた。

阿修羅像には思い出がある。東京国立博物館で展覧会があり、暑いなか長い行列に並んで見たことがある。今回は質素で、静かな空間だったこともあり、また違った感動を覚えた。講堂内は撮影禁止なので、出口外から、そっと撮ることができた。



五重塔と東金堂もなかなかの味がある。また「奈良さんぽ」をしてみたい。

(2017年10月8日)